

「NEXCO中日本における降雪時の対応に関する検討会」会議資料から抜粋 名神(関ヶ原地区)の大雪時における大規模車両滞留事象

【別紙1】

- ・ 急激な気象変動に伴う路面悪化により発生したスタック車両を契機に大規模な車両滞留が発生
- ・ 気象急変に伴う強降雪に対して、実況に伴い通行止めを判断する基準が不明確だった

1. 名神(関ヶ原地区)の路線特性

<気象特性>

- 伊吹山地や鈴鹿山脈に挟まれた谷筋地形の影響で雪雲が集中・発達し、短期間の集中的な大雪が発生しやすい

<道路特性>

- 急な上り坂(最大勾配5%)が連続
- 冬用タイヤ規制実施が困難

<交通特性>

- 関西圏・中部圏を結び3万台/日を超える交通量
- 大型車混入率(約4割)が高く、雪道に不慣れな車両やノーマルタイヤ車両が多く通過

➔ 降雪時の高速道路管理において難易度の高い路線



2. 名神(関ヶ原地区)の滞留事象概要

- 2024年1月24日、JPCZ※1が関ヶ原地区に長時間停滞し、予測(最大5cm/h)を大きく上回る強降雪(最大14cm/h※2)を記録
- 路面状況が急激に悪化し、9時02分にスタック車両が発生
- スタック車両や視界不良に伴い、下り6.6km、上り5.5kmの車両滞留が発生
- 自衛隊及び岐阜県等から協力をいただきながら、除雪や物資支援を実施し、約19時間後に車両滞留が解消

■スタック車両発生状況



■乗員保護の状況

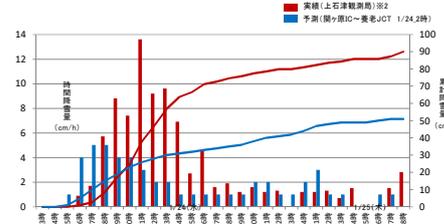


※1 JPCZ: 日本海寒帯気団収束帯 (Japan sea Polar air mass Convergence Zone)
冬季に日本海で形成される、長さ1,000km程度にわたる気団の収束帯のこと。この収束帯付近で対流雲が組織的に発達し、本州日本海側の地域では局地的に大雪となることがある。
※2 NEXCO中日本が設置した降雪計で観測

■車両滞留状況



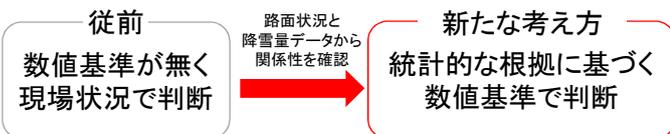
■気象予測と降雪実績の比較



3. 実況降雪に基づく通行止め基準

雪による通行止め基準の見直しに向けた考え方の整理

- ・ 当該地区の気象特性や降雪実績を踏まえ、路面状況と降雪量の関係性から、除雪後に黒路面を維持できなくなる降雪量を確認。この降雪量を実況降雪による通行止め基準に用いる新たな考え方を整理



名神等で適用する通行止め基準について、適用するIC区間及び基準降雪量を「名神・新名神に関わる広域的な雪害対応に関する関係部長級会議」※で確認

※ 構成: 中部・近畿地整、滋賀県、岐阜県、三重県、NEXCO中日本・西日本

実況降雪に基づく通行止め基準に関する確認事項

- **通行止めを実施する基準降雪量を設定**
15分間降雪量(実況): 1.15~1.75(cm)の範囲から閾値となる1つの数値を決定。
- **適用するIC区間を設定**
適用区間は、短期的・集中的な大雪が発生しやすく、急な上り坂が連続する区間として、名神の関ヶ原周辺に適用。
また、交通集中に伴う渋滞が発生しやすい箇所として、新名神(三重県側)にも適用。